

氏名(本籍)	安 <sup>あ</sup> 積 <sup>づみ</sup> 紀 <sup>とし</sup> 雄 <sup>お</sup> (愛知県)		
学位の種類	博士(理学)		
学位記番号	博乙第1,133号		
学位授与年月日	平成7年11月30日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	地球科学研究科		
学位論文題目	The Regional Development of Commercial Warehouses and Its Locational Bases : Focusing on the Tokai and Hokuriku Districts (営業倉庫の地域的展開とその在立基盤—東海・北陸地方を中心として—)		
主査	筑波大学教授	理学博士	奥野隆史
副査	筑波大学教授	理学博士	高橋伸夫
副査	筑波大学教授	理学博士	斎藤功
副査	筑波大学教授	理学博士	佐々木博
副査	筑波大学助教授	理学博士	田林明

## 論文の要旨

本研究の目的は、東海・北陸地方を対象地域として、営業倉庫の立地と地域属性の関係に注目し、営業倉庫の進出条件及び進出後の存続を保障する存立条件を解明することにある。

そのため、著者は営業倉庫の東海・北陸地方に於ける地域的发展過程の調査から、その立地地域を港湾都市(地区)と内陸都市(地区)に要約できるとして、それぞれの地区に於ける倉庫について、経営母体・進出地域・保管品目・その出入庫先に基づく類型化を行った。その類型化の結果は倉庫業・内陸型、製造業または陸送業・内陸型、倉庫業・港湾型、港運業・港湾型の4類型であるが、内陸型の前者は既存荷主の系列の存在が、後者は既存荷主依存がみられるものの幹線交通網に対する近接性と倉庫用地の入手性がそれぞれ主要な進出条件となる。港湾型の倉庫に関しては、港湾関係の運送事業や保税上屋などの免許の所有の有無という特有の進出条件が認められる。

このような進出条件によって倉庫は新規立地するが、その立地持続性があるか否かによって倉庫の地域的分布が現出する。この観点から著者は、立地の継続を与える条件つまり存立基盤及び立地の持続を制約する条件を考察した。この考察に際して倉庫に関係する物流に着目して生産地倉庫・中継地倉庫・消費地倉庫という類型を新たに付加した。生産地及び中継地の倉庫は、内陸型・港湾型ともに地域での大量生産や品揃えに伴う貨物の滞留現象が存立基盤となる。そして消費地倉庫は中心性の強い都市の市街地に集中し、大量消費と品揃えの機能を備えること及び商業的伝統性が存立の安定要因となっている。これの典型は名古屋市街地地区に見られる。制約条件としては、生産地倉庫に関して自動車部品の保管需要の希少さ及び重量貨物の低付加価値などが指摘される。中継地倉庫については、保管品目の種類による制約条件の相違がみられ、綿花や雑貨類などは存立の促進要因となっている。

以上のような進出条件・存立制約条件の3者の相互作用によって現実の東海・北陸地方に於ける営業倉庫の分布が形成されているが、その分布によれば、消費地倉庫は少数の都市に限定集中する傾向が強いこと、それは物流の中核となる巨大都市との位置関係及び交通網の整備状況に影響されること、そして倉庫の勢力圏に三つの階層構造がみられることなどが見いだされる。その階層構造は、名古屋市を頂点としてその下位に金沢・静岡・浜

松市が配置され、更にその下位に岐阜・豊橋・岡崎・四日市・福井・富山・清水・富士市が位置し、上位都市が下位都市を順次抱含するという地域関係を示している。

## 審 査 の 要 旨

倉庫を扱った従来の主要学問分野は商業学であり、そこでは物流コストの低減化とマーケティング指向との調整問題の解決が重要課題であった。倉庫は物流の結節点であり、地域的流動網の主要要素であり、それ故に地域変化の要因として機能するにもかかわらず、倉庫の立地研究は地理学に於いて等閑視されていた。

著者は、倉庫とりわけ営業倉庫の立地は倉庫の利潤最大化という経済性と、その立地を受け入れる地域が固有する属性との合致点に実現するという観点に立ち、倉庫の立地密度が平均的な東海・北陸地方を対象として倉庫の進出条件・存立基盤・存立制約条件を考察した。倉庫に関しては既存資料が全く無く、すべての資料に聞き取りによって入手し、その分析結果に基づいて立論がなされている。

この研究は、物流という交通地理学の対象と倉庫経営という商業地理学の対象を統合することによって2分野の境界領域を開拓するとともにこれまで未知であった倉庫立地の地理学的特徴を明らかにし、高い評価を与えることができる。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。